

平成 30 年 10 月 31 日

各位

株式会社 徳
ノリックス有限会社・有限会社和公
代表取締役 鷺岡和徳

前略、今月も社業に専心頂きありがとうございます。

私が 10 年前から購読している人間学の雑誌の中で「自己を丹精する」という記事がありました。

これはわかりやすく言えば「自分という人間を真心を込めて仕上げていく」という意味です。

私は若い頃から葬儀に関わる料理の製造販売の仕事をずっと続けてきました。人の死を比較的間近で見てきました。その中で「生あるものは必ず朽ちてまた新しい命が生まれてくる」という世の中の摂理を学びました。私たちの人生はその一つの流れに組み込まれていることは周知の事実です。

それに対して常に死を意識して「今できること」を精一杯することが自己を丹精することにつながると思います。

できれば死は忌避（避けたい）したいものですが老いや死がなければ私たちは生の意味を発見することはできないと思います。つまり死ぬことも人間の務めであるのなら死ぬまで精一杯生きることでもまた務めであると最近思うようになりました。

よく人が「幸福」に生きるには何が必要か？という問題についての答えで最もよく言われるのが「人に与えること」、つまり自分が人に何かしてあげられることはないかを考え実行することと言われます。

自分のしたいことを自分の力を使ってすることはとても大切なことです。しかし同時に他者のためにさせていただくという気持ちも大切なのです。

私はオペラをよく見るのですがオペラの語源はラテン語で「仕事」という意味です。だからオペラはたくさんの人で作る一つの仕事なのです。主役がいても主役だけではオペラはできません。それぞれの人がある役割を与えられてその持ち場で丹精を込めて演じるために素晴らしいオペラになります。

また自己を丹精するためには一生かけてもいいと思う目的が必要です。その目的に向かってどのような人間に自分を仕上げたいのかということを考え実行することです。

つまり自分の人生の主役は自分なのです・・・

【社是】

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」

【モットー】

「一膳入魂」～うまい料理は世のため人のため～

すべては自分のために。

すべてはお客様のために。

すべては会社のために。

すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう。

草々